

1 事業総括

1年を通して、大きな事故等なく安定的な運営ができた。年間入所目標を75名としたが、実績は64名で目標の85.3%という結果となった。入所者のうち、26.5%（17名、前年度は16.8%）が精神科病棟から退院後の入所であった。精神疾患を抱えた利用者の増加等で、より丁寧な支援を心掛けたことが入所期間の長期化の要因といえる。退所時の目的達成率は、68.8%で、平成28年度から4%向上した。引き続き、改善に努めたい。

月初人員は、年間平均53名と昨年（50.3名）を上回った。事務費を確保し、経営の安定化に寄与した。1年を通じた平均在籍人数は51.39名であった。支援が必要な対象者の積極的な入所受け入れと待機期間の短縮に努めた。

平成29年度より、「日中活動率（就労、デイケア、トライワーク・プログラムの活動をしている利用者の割合）」を支援上の指標として挙げることで、利用者一人一人の日中活動に目を向けて、きめ細やかな支援を心掛けた。4年目に入った利用者支援の中心である『本木荘トライワーク・プログラム』の積極的な活用により、日中活動率は80%前後を維持するようになった。

地域・関係機関との連携を継続できるように、例年通りの夏祭り・もちつき会をはじめ、保健栄養教室や足立区こころの健康フェスティバルへ参加した。地域食事会の場の提供や太極拳の実施などで地元の地域包括支援センターと積極的な関わりを持つことで、平成29年12月から足立区の「高齢者孤立ゼロプロジェクト」の一環として、本木荘が『絆のあんしん協力機関』として登録された。地域貢献ができるように、さらに地域との連携を深めていきたい。

〔利用実績〕

	年度 累計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所者数	64	8	5	8	3	5	4	6	2	4	6	9	4
退所者数	64	6	7	6	3	6	4	5	4	3	10	7	3
月末在籍数	平均 52.6	54	52	54	54	53	53	54	52	53	49	51	52
28年度	平均 50.9	52	51	51	53	53	50	50	49	50	50	50	52

〔退所理由〕

(単位：人)

	自 活	居 宅 移 管	入 院 除 籍	他 施 設 移 管	任 意 退 所	無 断 退 所	命 令 退 所	等 同 居	帰 郷 ・ 親 族	拘 留 除 籍	死 亡	促 進 社 会 復 帰	そ の 他	合 計
29年度	2	31	2	8	12	6	0	0	0	0	0	3	0	64
28年度	3	32	2	8	11	8	0	0	0	2	1	4	0	71

2 主要目標に対する成果

(1) 本木荘トライワーク・プログラムの実践

利用者の日中活動を推進させるためのツールとしてトライワーク・プログラムを活用し、利用者支援の中心となった（常に20名前後が参加）。日中活動は、就労機会の提供、健康増進、施設引きこもりの防止、など支援に有益な取り組みとなった。

(2) 専門的支援の推進

精神障害や発達障害などさまざまな課題を抱えて入所してくる利用者が増えている。多様化する課題について適切に対応するため、外部有識者を招いた事例検討会を4回実施した。依存症利用者に対して、「ハームリダクション」等の新たな支援についての選択肢を学んだ。

(3) BCP等に基づく安心・安全な施設運営

大きな災害や事故等はなかった。月に1度の避難訓練では、日中想定の外に夜間、地震を想定した訓練を実施した（計7回）。年1回は、地元の消防署員を招き、避難訓練を実施した。消防署員からは、迅速な避難の様子を評価された。また、水害時の注意点などの講話も行った。

(4) 地域に開かれた施設作り

夏まつりは、地元の小学校等にチラシを配布したことにより、来場者は270名を超えた（昨年：206名）。トライワークの公園清掃は、清掃箇所を7か所に増やした（前年度5か所）。

3 運営管理	
<p>(1) 日常の援助 ⇒一般枠は入所事前見学を全入所者実施した。個別自立支援プログラムを策定し、適切な個別支援を実施した。意見箱への投函数は11件あった。</p> <p>(2) 自立促進・転出促進 ⇒生活訓練室(1室)を活用し、居宅生活に向けた支援を提供した。3枠の緊急対応枠については、年間15件の受け入れを行った。</p> <p>(3) 給食関係 ⇒嗜好調査(年2回)を日々の給食に適切に反映し、食事に関する満足度が上昇した。(31.9⇒69)誕生日食事会を実施した(年12回)。利用者に好評な選択食を喫食数の多い昼から夕に移動し、メニューについても嗜好調査を踏まえた人気の献立をバランスよく提供した。</p> <p>(4) 諸行事 ⇒計画した行事は全て実施した。利用者ニーズ把握のため、毎月の全体懇談会、フロア懇談会の他に臨時懇談会や個別対応を適宜実施した。</p> <p>(5) 消防・防災等 ⇒防災ヘルメットを利用者の各居室入口に懐中電灯と共に設置した(54箇所)。</p> <p>(6) 職員会議等 ⇒第三者評価後、各職員から業務改善の提案を積極的に募った。職員会議において優先順位をつけて、9件の業務改善に取り組み、達成した(ベッド下収納の設置、トライワークの新設等)。業務中のインシデントをヒヤリハット報告(年9件)として職場全体に共有することで、アクシデント(事故報告:年0件)の発生を未然に防いだ。</p>	
4 保健衛生・環境整備	
<p>(1) 保健衛生 ⇒栄養士が月に1度、利用者の体重管理を実施した。必要に応じた栄養指導を行った。窓口から離れた場所にあった服薬管理ボックスを利用者に近い窓口に移動することで、迅速で確実な服薬管理を徹底した。</p> <p>(2) 衛生保持・感染予防 ⇒手洗い・うがいの励行、マスク着用、インフルエンザ予防接種、保健栄養教室などによる、インフルエンザ等の感染症予防に努めた。インフルエンザ発症時には、個室居室の計画的な利用と、近隣病院の積極的な活用により、感染拡大の防止を徹底した。</p> <p>(3) 環境整備 ⇒月に1度、利用者の居室の清掃状況等を確認する日を設け、居室の整理整頓等で課題の窺えた利用者にはフォローアップ指導を看護師が中心になり行った。定期的な防虫調査(月1度)や入所時の生活害虫確認を徹底、害虫の発生を完全に防止した。</p> <p>(4) 潤いのある生活環境の保持 ⇒足立区内の就労継続支援B型施設と園芸活動を実施した。利用者用トイレに温水洗浄便座を設置した。</p>	
5 施設の社会化(地域交流事業及び施設機能強化推進事業)	
<p>(1) 地域との交流促進 ⇒手工芸活動等にボランティア(年間延べ65人)を受け入れプログラムの充実を図った。地域の地域包括支援センターが主催している「認知症カフェ」で地域住民に対して施設紹介をする機会を貰い、地域交流の促進を図った。</p> <p>(2) 実習生の受け入れ(社会福祉士) ⇒社会福祉士の実習生を、5学校延べ6名受け入れた。</p> <p>(3) ケースワーカー等の見学会の受け入れ ⇒福祉事務所説明会を実施し、13名が参加した。アルコール問題連絡会、精神保健福祉情報ネットワーク、おりづる杯、足立区こころの健康フェスティバルへ参加し、足立区内の地域社会資源等との連携強化を図った。</p>	
6 福祉サービス第三者評価 評価結果	
評価機関：特定非営利活動法人NPOサービス評価機構	実施期間：H29.6.1～H29.10.13
<p>特に良いと思う点</p> <p>① 地域とのつながりを生かした運営に力を入れている。</p> <p>② トライワーク・プログラムなどの就労支援体系があり、社会との関係づくりを支援している。</p> <p>③ 昨年に比べ利用者アンケートのすべての項目で大幅に改善し、意欲的な改善の試みが成功している。</p> <p>さらなる改善が望まれる点</p> <p>① さらなる精神科領域の利用者への支援力量向上が期待される。</p> <p>② トライワーク・プログラムのさらなる拡充を期待したい。</p> <p>③ 利用者の社会的体験を広げる施設行事の幅の拡大を期待する。</p>	<p>施設コメント：</p> <p>施設サービスの総合的な満足度は、74%と前年度の34.1%を大きく上回る結果となった。さらなる改善が望まれる点で指摘された項目、特に唯一50%を越えなかった行事の実施(41%)について注力することで、施設満足度の更なる向上を図っていく。</p>